

第十一回小児重症筋無力症研究会のお知らせ

重症筋無力症(MG)は若い女性に多い病気として知られておりましたが、1970年代初頭、当時東京大学小児科にて小児神経疾患の診療にあたっておられました瀬川昌也先生は小児期発症のMGが多いことに気付かれました。1973年に行われた全国疫学調査にてこれが明確にされました。以後2006年まで計4回の全国疫学調査が行われましたが、成人の発症年齢が高齢化してきていることに比し、この小児期発症のピークは33年間変わらずみられております。この小児MGは特定のHLAに規定されることが知られており、その後中国、韓国にも小児MGが多いこと、およびHLAとの関連も報告されております。

小児重症筋無力症研究会は、小児MGの臨床的特徴、その基礎、適切な治療について学んでいくことを目的に2006年、故瀬川昌也先生のご指導の下に発足しました。本年2016年は第11回をむかえます。

この研究会は毎年日本小児神経学会学術集会の関連研究会として学術集会の最終日に集会終了後行ってまいりました。しかし、本年は日本小児神経学会学術集会終了の時間の関係で小児MG研究会を行うことができませんでした。そこで、このたび関連の皆様からのご好意を頂き、第28回日本神経免疫学会学術集会の終了後、同じ長崎ブリックホールにて行うことにいたしました。

西洋文明到来の地で、近代医学が芽吹いたこの地長崎は、ご存じのごとく本邦MGの研究に関しまして多くの先輩研究者諸氏を輩出しております。今回は胸腺をそのテーマといたしました。

プログラムは、特別講演Iと致しまして、長崎川棚医療センター 松尾秀徳先生から「重症筋無力症の病因としての胸腺」、特別講演IIといたしまして、徳島大学 松井尚子先生から「胸腺免疫からみた重症筋無力症」と題してお話をいただきます。症例検討では小児MG胸腺摘除例について昭和大学横浜市北部病院こどもセンターと聖隷三方原病院小児科から症例提示があります。

日本神経免疫学会学術集会のご参加者は神経内科系の先生方が大多数ですが、ご帰宅を少し延ばしていただき、是非第11回小児重症筋無力症研究会にご参集いただき、あらためてMGにおける胸腺の意味、および小児MGにつきましてご討論いただければ幸甚でございます。ご多忙と存じますが、多くの方々のお越しをお待ちいたしております。

2016年8月 小児重症筋無力症研究会 世話人一同

- 日時：平成28年9月30日(金) 17:30～20:00
- 会場：長崎ブリックホール 3階会議室 1・2・3
〒852-8104 長崎市茂里町2-38 Tel：095-842-2002
- 会費：1,000円

プログラム

17:30-17:35 Opening Remarks

代表世話人 野村 芳子 先生

17:35-18:20 特別講演1：重症筋無力症の病因としての胸腺

長崎川棚医療センター 松尾 秀徳 先生

18:20-19:05 特別講演2：胸腺免疫からみた重症筋無力症

徳島大学 松井 尚子 先生

19:05-19:55 症例検討

抗AChR抗体高値を示した思春期発症の重症筋無力症の女兒例
聖隷三方原病院小児科

クリーゼによる呼吸管理にて抜去困難が懸念され胸腺摘出を選択した全身型重症筋無力症の一例
昭和大学横浜市北部病院 こどもセンター

19:55-20:00 Closing Remarks

軽食をご用意しております

世話人 野村 芳子、林 正俊、稲葉 雄二、石垣 景子

連絡先 小児重症筋無力症研究会事務局 (JTBコミュニケーションデザイン内 篠崎・田中)
Tel: 03-5657-0726 Fax: 03-3452-8543 E-mail: c-mg@jtbc.com.co.jp

共催：小児重症筋無力症研究会／アステラス製薬株式会社